

2023年度 岡山ネットワーク (oni ビジョン) 番組審議会 議事録

■日時：2024年3月26日（火） 午前10時半～11時半

■場所：岡山ネットワーク会議室（岡山市北区新屋敷町1-1-18）

■出席者：

番組審議会委員 高山晃一委員、中桐望委員、長門修二委員、西谷治朗委員、平田慎一委員
(5人中5人出席)

Oni ビジョン 河原聡（社長） 富長一郎（常務） 平松千明（地域創造本部長兼営業部長）
吉井健二（同本部コンテンツビジネス部長） 江草貴善（同部係長）

■議事概要：

冒頭、河原社長が「oni ビジョンはことし営業エリアを拡大し、これまで以上に地域の皆様に貢献するコミュニティチャンネルにしていかなければと決意を新たにしている。そのためにも忌憚のない意見をいただきたい」とあいさつ。吉井部長がスポーツや祭りの生放送などコミュニティチャンネルを使った年間の取り組みや4月1日に実施する放送基準の改定について概要を説明し、委員の承認を得た。質疑で出た委員の意見は以下の通り。

審議した番組：「oni ニュースプラス」、「4年ぶりの子供の戦い 松林寺子供会陽」

（高山委員）

- ・多くの市民が登場し、地上波放送のニュースとは違う内容となっている。センバツ高校野球大会のニュースは出場が決まった創志学園高校に加え、（二十一世紀枠の候補に挙がった）岡山城東高校に脚光をあてたのはよかった。能登半島地震を受けて各地で行われた防災訓練やあまり知られていない行事を紹介していたのは好感を持った。
- ・コロナ禍が明け、子供会陽が復活したことを番組で知った。（子供会陽）特集の番組は参加する子供、保護者、主催者などたくさんの方が登場していてよい。
- ・今後はイベントや祭りの予告、お知らせの放送を充実させてほしい。

（中桐委員）

- ・oni ビジョンのニュースは地域密着の情報が多く、地域への理解が深まる。地上波放送のニュースは当事者の声がわからぬが、oni ビジョンでは当事者の声もしっかり聴くことができよい。インタビューは（内容をフォローする）テロップの表示で理解できるが、ナレーションは聞き取れない部分がある。アナウンスのレベル向上に取り組んでほしい。
- ・特集は様々な取材をしており、ボリューム感があつた。ニュースと違って番組の場合は視聴者もストーリーを求めると思うので、もう少し構成を練れば番組が良くなる。

(長門委員)

- ・いつも oni ビジョンのニュースに興味を持って見ている。中山間地域は都市部に比べて情報発信量がどうしても劣るが、oni ビジョンが地域のイベントを報じてくれているのはありがたい。防災についても、被害を少なくするため、いろいろ取り上げてほしい。
- ・(子供会陽で) 宝木を取れなかった子が頑張っているところが、かわいかった。参加する子供が多ければ行事ももっと盛り上がるだろう。子供会陽を実際に見たことはなく、oni ビジョンの放送で初めて見た。自分たちの地域行事を盛り上げる参考にしたい。
- ・各地のイベント情報の予告やお知らせの放送を拡充してはどうか。

(西谷委員)

- ・福渡(の防災訓練)と高田(の卓球大会)は、世代間の交流を取り上げていてよかった。センバツ出場校の決定も、選ばれなかった岡山城東高校はかわいそうな面があったが、夏の甲子園県予選に向けた主将の決意をインタビューしていたのは評価したい。岡山工業高校の卒業制作展は、制作した生徒の声がなかったのが残念。
- ・(子供会陽の特集は) 子供や奉賛会の喜びが伝わってきた。子供会陽で達成感を味わった子供が成長して西大寺会陽に参加するようになると地域の行事を引き継いでいくことにつながり、oni ビジョンも番組を制作した意義が出てくる。(宝木を取れず) 涙を流した女の子が再挑戦した後、どうなったのか。ここに言及していなかったのは消化不良だった。

(平田委員)

- ・センバツ出場校決定では岡山城東高校に光を当てたのがよかった。他のテレビ局はナレーションで城東に触れただけだった。(岡山工業高校の) 卒業展示は制作した生徒のインタビューがなかった点は残念だ。ネットで情報を得ることが主流になっている中、ニュースも自分で選ぶ時代だが、oni ビジョンのニュース(の特色)は好意的に受け止めている。
- ・(子供会陽で) 今回初の試みとなった中学生の部は迫力があり、楽しんで見た。福男以外の一般参加者にスポットを当てているのはよい。宝木を取れず泣き出したが、再挑戦した女の子をフォローしてほしかった。
- ・ネット全盛期だけに(oni ビジョンが開設している) YouTube の登録者数を増やす取り組みをしてはどうか。